

自然とふれてみて

M・I

私は、今回福島の裏磐梯に行き、1日目、2日目と講師の先生方からいろいろなことを学んだし、いろいろなことをおしえてもらいました。自分が知らなかった植物を見たり、見たかった植物を見たり写真を撮ったりすることができました。私が知りたかったことは、最初に植物の種子の広がり方でした。私がそのことについて興味をもつきっかけは、植物は、同じように全部の植物が子孫を残していくために広がっていくのではなくて、全部いろいろな広がり方をしていくというのを聞き、気になったので知りたいなあと思うようになりました。

その、疑問は2日目でわかりました。まず、動物散布というのがあり、果実を食べてもらうでは特に、ミズキ、アケビ、トチノキ、クリ、ミズナラなどで体表に付着では、ヌスビトハギ、キンミズヒキ、チジミザサ、オオバコなどです。風散布では、綿毛で飛ぶのがあり、キクの仲間、ヤナギ、カガイモ、ヤナギランなどがあって翼で飛ぶでは、アカマツ、ウダイカンバ、カエデ類などではざるでは、マメ科の仲間、カタバミ、ツリフネソウ、マンサクなどで、水に流されるでは、クルミ、ヒルムシロなどです。

私は、クルミはリスとかに食べられて広がっていくのかと思っていたので、水に流されて運ばれて子孫を残していくのには驚きました。クリとかカエデ類は、動物に食べてもらったり、自分で飛んでいったりすると予想したそのとおりでした。植物も子孫を残していくためにおもしろいやり方をしたりびっくりするようなやり方をしたり、予想外のやり方をしたり、思ったとおりのやり方をしたり、植物も子孫を残していこうとするために、すごくがんばっているんだなあと思いました。

私は、見たかったものを見られたし、写真をとったりできました。トリカブトは裏磐梯に行く前のゼミ学習で興味をもち裏磐梯へ行ったら絶対に見てみたいなあと思っていた。トリカブトは紫色の花で、毒があるそうです。見た感じはきれいな花なのに毒をもっているの、とてもびっくりしました。

私は、見たかったやつ以外にも不思議な植物やおもしろい植物などはじめて見る植物ばかりで、驚いてばかりでした。たとえば私が驚いたのは、花の汁で色をつけるって言っていて、私は最初その花の汁は昔の人達が服とかそういうものを染める時に使う汁なのかなあと思ったけど、私の予想とはちがって洗った時に使う汁なあと思ったけどつけたらその色が落ちちゃうらしいので、昔の人達は色塗りを色鉛筆ではなく花の汁で色塗りをしていたらしいです。予想とはちがっていたし、昔の人達も花の汁で色塗りをすることを考えだしてすごいなあと思いました。花の色は青っぽいむらさきでした。ほかの色も花の汁でいろいろな色を見つけて塗っていたんだなあと思いました。あと、くまが残したこんせきみたいなものをすごくいっぱい見られました。この写真はくまが木に残したくまのひっかき傷です。



ほかにも土の上をくまが歩いたような痕跡がありました。これは、けっこう新しい足跡だったらしいので、はじめてくまの足跡を見たのですごいなぁと思いました。あと、くまの痕跡で一番すごいなぁと思ったのが、くまが木の上にある実をとろうとして折ってしまった木の枝をネイチャーガイドの先生はその木の枝を人間が折ったのか、くまが折ったのかが見ただけでわかっていたのですごいなぁと思いました。それに、ビックリしたのは熊が実をとろうとして折ってしまったのは、一週間前にいたと思うとビックリします。

あと、すごい年月が経ったから模様ができた家の一部がありました。古い年月が経つとこういう模様ができるのは、はじめて知ったし、はじめて見たので不思議に思いました。ワラでできているのに雨が降ってもまったく雨もりしない屋根がありました。見た目は、けっこう古い感じの家で雨が降ってきたら、あまもりしそうなのにしないので不思議だし、ビックリしました。

トリカブトの仲間は日本には約30種類自生していて、花の色は紫色以外にも、白、黄色、ピンク色などがある。多年生植物です。沢節などの比較的湿気の多いところを好みます。ドクウツギ、ドクゼリと並んで日本三大有毒植物の1つとされており、トリカブトは食べてしまうと、呼吸困難になったら死に至るなんてことは見た目では、全然わからないから食べてしまう人がいるんだなぁと思いました。

